

～成長型経済の実現に向けた地域企業の取組～ 事例紹介

輸出と売上の増加に伴うさらなる設備投資の好循環

はこだて べいこく
函館米穀株式会社

(本 社) 北海道函館市
(資本金) 65百万円
(従業員数) 28名 (2025年9月現在)
(業 種) 卸売業

- ◆戦後まもなく道南地区への米の安定供給を目的に設立。現在は道南に限らず全国、世界へ販売。
- ◆自社の精米工場では食品安全の国際規格FSSC22000を取得し安全・安心な品質を徹底。



1. 背景

- 平成のコメ騒動以降、道南地区における需要減と競争への対応として当地区以外への販路拡大を志向する中、金融機関主催の商談会において海外バイヤーとの輸出商談が成立。
- 海外への販売を優位にするため、FSSC22000を取得。
- さらなる販路拡大のため設備投資を検討。

2. 収益力を強化するための取組

- 積極的なプロモーションにより、令和2年度から海外への輸出量が急増。

設備
投資
(R3)

- 品質保持期間の延長や長期輸送へ対応するための設備投資（脱酸素剤投入機能付き計量包装機）を実施。
- 新たに精米機等一式を導入し、輸出用ラインを増設。
- 日本全国に展開する大手流通企業への販売にも有利に。

- ロシアのウクライナ侵攻により国際的に穀物価格が上昇。相対的に安価な米の海外需要がさらに増加。
- 輸出先国の規制などにより脱酸素剤を封入できないケースが発生。

設備
投資
(R7)

- 新たに窒素充填による包装が可能な設備を導入(R7.10末稼働予定)。



※脱酸素剤対応済みのお米

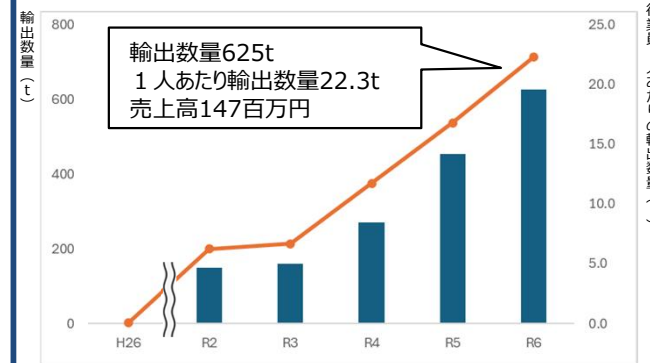
3. 取組の効果

- ①輸出数量の増加。
- ②売上高の増加。
- ③輸出先国の増加。
- ④生産性（従業員1人あたり輸出数量）の向上。

【コメ輸出に伴う売上高の推移】

H26	R2	R6
3百万円	39百万円	147百万円

【コメ輸出数量等の推移】



【コメ輸出先国の推移】

H26	R2	R6
1か国	10か国	12か国
香港	香港、オーストラリア、アメリカ等	香港、オーストラリア、アメリカ、カナダ等

4. 今後の展開

- 海外における卸先は現地の高所得者層等をターゲットとしており、スシ用などの引き合いが依然として強い。
- 引き続き海外で試食イベント等のプロモーションを展開。今後も一層の輸出数量・売上増を目指す。

【画像出所：函館米穀HP】